

東京五輪ボイコット委員会への支援メッセージ

パリ、2017年1月13日

東京オリンピックのボイコット運動は、国際的な金融資本主義の野蛮なグローバル化を拒否するすべての世界市民にとっておおきな朗報です。動植物の加速化する抹殺、様々な公害による自然と都市環境の劣悪化、社会的不平等の激増、世界の新たな主人たちに支配された多くの民衆の途方もない貧困化は、投機的利益の激しい追求、暮らしのあらゆる分野に及ぶ商品化、銀行家たち、億万長者や特区資本、マフィアのネットワークなどの多国籍寡占支配による富の独占が引き起こしている大災厄について、自覚する契機となりました。

国際オリンピック委員会（IOC）― 臆面もない＜幸福な少数者たち＞の世界のショーウィンドー― は四方八方に触手を伸ばす機構であり、各国民衆の集団的利益、持続的発展や生態系の均衡、そして人権の尊重をも犠牲にして、みずからの私的な繁栄を常に優先してきました。このことは、2008年の北京五輪の際には中国の全体主義的で帝国主義的な国家との共犯によって、またソチ冬季五輪の際にはグラディエミル・プーチンの専制的で軍国主義的な体制との積極的な協力によって、再び三たび証明されました。

IOCは基本的な予防原則の考慮を拒否し、無責任な日本政府に依拠しつつ、福島原発事故によって持続的な被害に見舞われ、巨大地震の永続的な危機に晒されたこの国で、途方もない費用がかかり甚大な公害を引き起こすオリンピックを開催するという方針を変えていません。同様にIOCは、日本の住民の長期的な利益を考慮することも拒否しました。スポンサーや広告主、貪欲な銀行機関によって組織されるオリンピックのスペクタクル、それは日常生活の困窮を忘れさせ、多くの地域紛争や軍事的な挑発行為が跡を絶たない地政学的戦略地域で、オリンピックが『祭典』であり『平和』だなどという虚偽に満ちた幻想を維持することを目的とするスペクタクルであり、日本の住民にはそんなものではない、もっと別のものが相応しいのです。

オリンピックのプロパガンダに反対し、公共資源の無駄遣いに反対し、攻撃的なスポーツ・ナショナリズムとメダル数の排外主義に反対して、東京五輪ボイコット委員会との、広汎な国際連帯の運動を組織することは緊急の課題です。私の心からの共感と闘士としての連帯をお送りします。

ジャン＝マリ・ブローム*

モンペリエ大学社会学名誉教授

『ケル・スポール？』誌国際学術評議会メンバー

*1940年ムルーズ生まれ。社会学者、哲学者。77歳。40年以上、スポーツや国際競技会、オリンピックの意味を問い、批判して来た反五輪のフランスにおける中心的論客。

最初は高校の体育の教官だった。1968年以来、スポーツを批判的に問い、『スクタクルの社会』を批判して来たギー・ドゥボールの批判と親近性がある。

(コリン・コバヤシ／鵜飼哲訳)